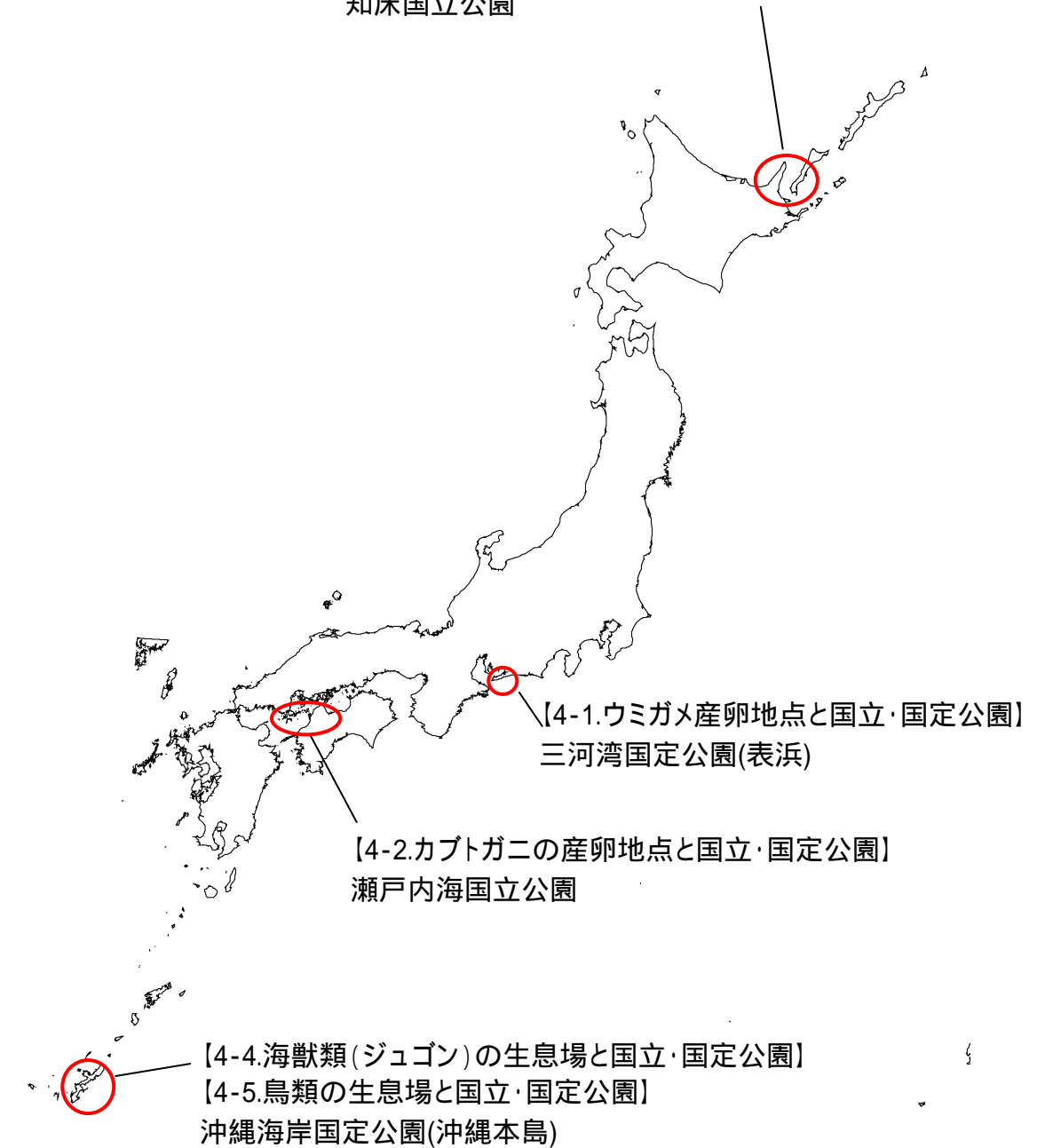


日本全国の国立・国定公園内の、主に海域を利用する野生動物に関する現状を既存の GIS データを用いて解析した(資料 4-1～4-6)。

・分析内容

	テーマ	重ねあわせデータ	分析内容	図示対象地域
資料 4-1	ウミガメの上陸・産卵場と国立・国定公園	国立・国定公園×ウミガメ類	ウミガメ類の上陸・産卵場が国立・国定公園に含まれる割合など	三河湾国定公園(表浜)
資料 4-2	浅海域保全の指標となる動物(カブトガニ)の産卵地点と国立・国定公園	国立・国定公園×カブトガニ	浅海域保全の指標となる動物(カブトガニ)の産卵地点が国立・国定公園に含まれる割合など	瀬戸内海国立公園
資料 4-3	海獣類(トド・ゴマフアザラシ)の上陸場と国立・国定公園	国立・国定公園×トド、ゴマフアザラシ	トド、アザラシ等海獣類の上陸場が国立・国定公園に含まれる割合など	知床国立公園
資料 4-4	海獣類(ジュゴン)の生息場と国立・国定公園	国立・国定公園×ジュゴン	ジュゴンの生息場が国立・国定公園に含まれる割合など	沖縄海岸国定公園(沖縄本島周辺)
資料 4-5	鳥類の生息場と国立・国定公園	国立・国定公園×ガンカモ、シギ・チドリ類、IBA	海辺の鳥類の生息場が国立・国定公園に含まれる割合など	沖縄海岸国定公園(沖縄本島周辺)

【4-3.海獣類(トド・ゴマフアザラシ)の上陸場と国立・国定公園】
知床国立公園



【4-1.ウミガメ産卵地点と国立・国定公園】
三河湾国定公園(表浜)

【4-2.カブトガニの産卵地点と国立・国定公園】
瀬戸内海国立公園

【4-4.海獣類(ジュゴン)の生息場と国立・国定公園】
【4-5.鳥類の生息場と国立・国定公園】
沖縄海岸国定公園(沖縄本島)

資料4-1. ウミガメの上陸地点・産卵地点と国立・国定公園

(ウミガメの上陸地点・産卵地点で国立・国定公園と重なっている割合)

【分析目的】

・近年生息数が減少しているウミガメ類の産卵地点・上陸地点が国立・国定公園に含まれる割合を確認する。

【分析の概要】

・ウミガメ類(アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ)の産卵・上陸場で国立・国定公園内と重なっている地点数

	アオウミガメ		アカウミガメ		タイマイ		種不明	
	産卵地点	上陸地点	産卵地点	上陸地点	産卵地点	上陸地点	産卵地点	上陸地点
国立公園	30	49	6	102	1	5	0	17
国定公園	0	10	5	96	0	6	0	28
公園外	3	40	52	321	0	9	0	166
総計	33	99	63	519	1	20	0	211

	アオウミガメ		アカウミガメ		タイマイ		種不明	
	産卵地点	上陸地点	産卵地点	上陸地点	産卵地点	上陸地点	産卵地点	上陸地点
国立公園	90.9%	49.5%	9.5%	19.7%	100.0%	25.0%		8.1%
国定公園	0.0%	10.1%	7.9%	18.5%	0.0%	30.0%		13.3%
公園外	9.1%	40.4%	82.5%	61.8%	0.0%	45.0%		78.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%

注 1): 四捨五入の関係上、合計しても 100%にならない場合がある。

注 2): それぞれの種ごとの産卵地点、上陸地点は重複しているものもある。

【分析結果】

- ・アオウミガメは上陸地点、産卵地点が二番目に多く確認され、産卵地点は 30 地点(90.9%)が国立公園に含まれ、上陸地点は 49 地点(49.5%)が国立公園に、10 地点(10.1%)が国定公園に含まれる。
- ・アカウミガメは上陸地点、産卵地点が最も多く確認され、産卵地点は 6 地点(9.5%)が国立公園に、5 地点(7.9%)が国定公園に含まれ、上陸地点は 102 地点(19.7%)が国立公園に、96 地点(18.5%)が国定公園に含まれる。
- ・タイマイは産卵地点が一箇所しか確認されて折らず、国立公園内である。上陸地点は 5 地点(25.0%)が国立公園に、6 地点が国定公園(30.0%)に含まれる。
- ・ウミガメ類の産卵地点については、アオウミガメは国立・国定公園内に多く産卵しているが、アカウミガメは国立・国定公園以外に産卵している方が多いことが確認された。

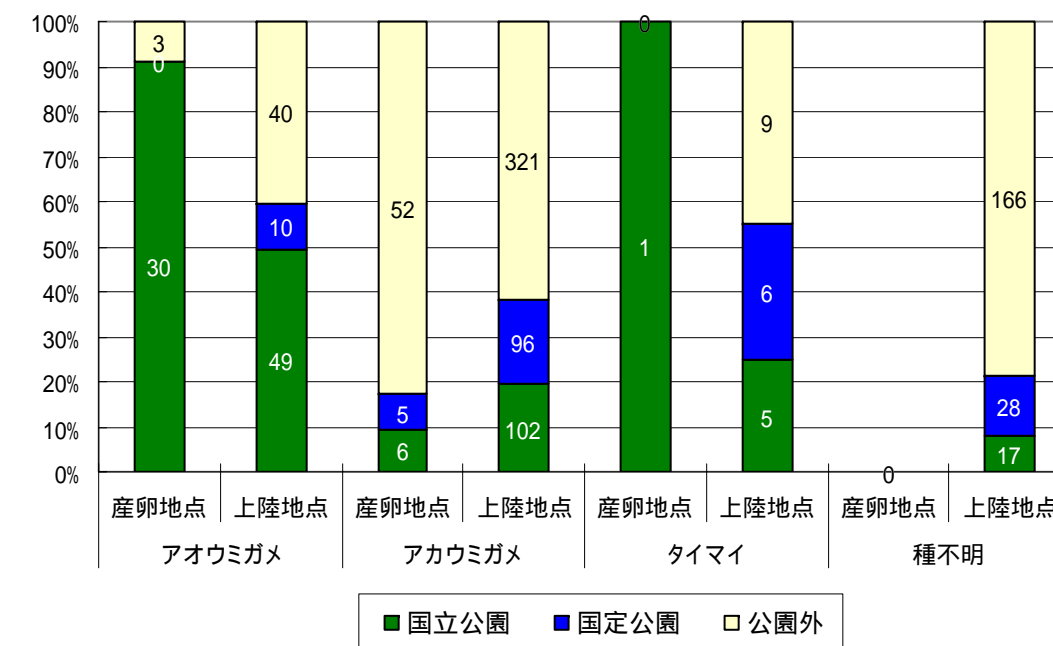


図 1 ウミガメ類(アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ)の産卵・上陸場で国立・国定公園内と重なる地点数

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園(環境省自然環境情報GIS)基礎データを基に修正
アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、種不明	・浅海域生態系調査(ウミガメ調査)報告書(第5回自然環境保全基礎調査 海棲動物調査)

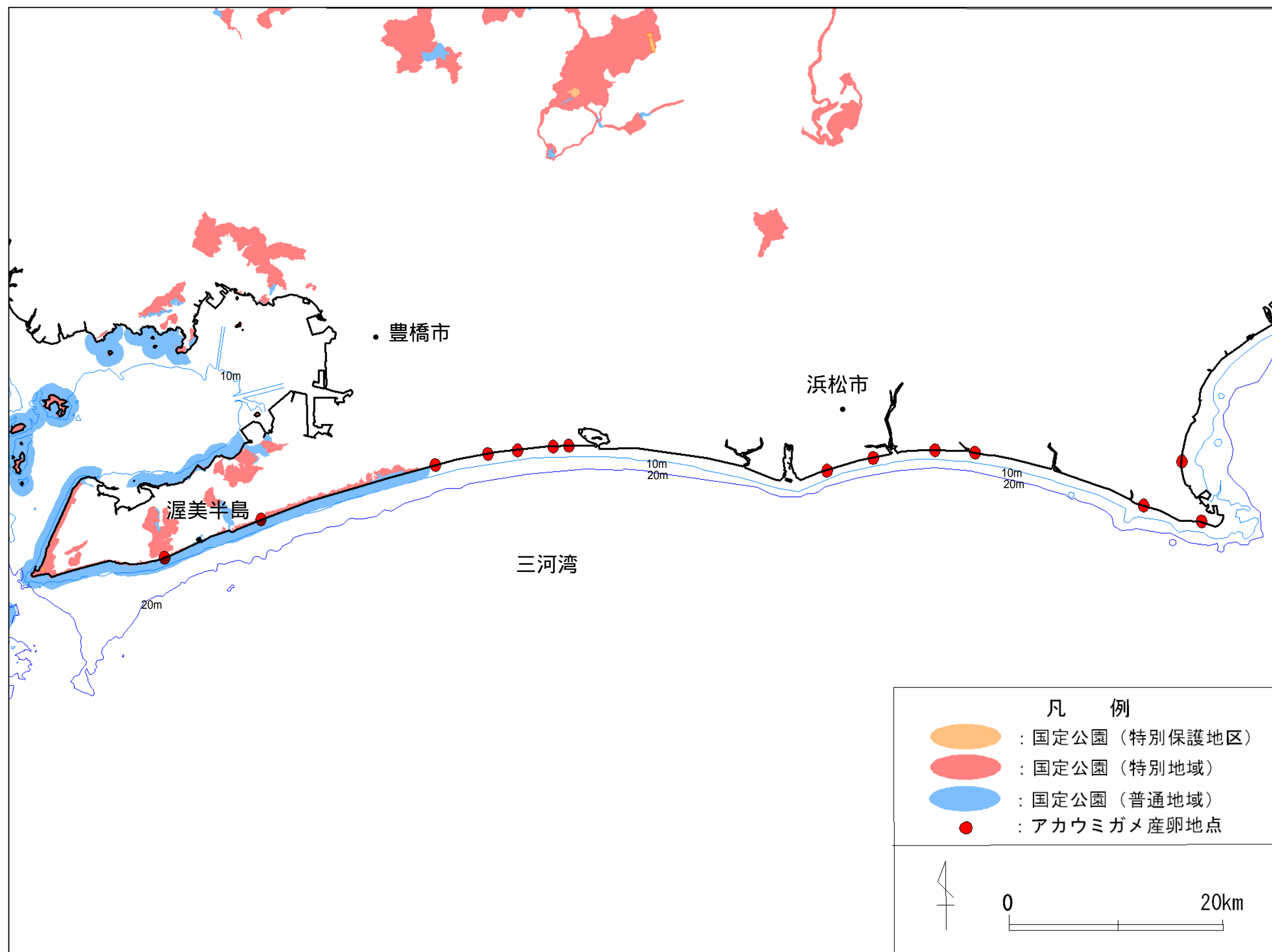


図 2 三河湾国定公園(表浜)におけるウミガメ類の産卵場所の状況

出典：「国立・国定公園：（環境省自然環境情報 GIS を基に修正）」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000 年（10 万の 1 を代表縮尺として編集されている）」、「ウミガメ類上陸・産卵場所：浅海域生態系調査（ウミガメ調査）報告書、環境省」

資料4-2. 浅海域保全の指標となる動物(カブトガニ)の産卵地点と国立・国定公園

(浅海域保全の指標となる動物(カブトガニ)の産卵地点が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ 浅海域保全の指標となる動物(カブトガニ)の産卵地点が国立・国定公園に含まれる割合を確認する。

【分析の概要】

・カブトガニの産卵地点が国立・国定公園内に含まれる地点数

	カブトガニの 産卵地点数
国立公園	3 地点
国定公園	2 地点
公園外	12 地点
全地点数	17 地点

・カブトガニの産卵地点が国立・国定公園内に含まれる割合

	カブトガニの 産卵地点数
国立公園	17.6%
国定公園	11.8%
公園外	70.6%
総計	100%

【分析結果】

- ・ カブトガニの生息場のうち、17.6% (3 地点) が国立公園に、11.8% (2 地点) が国定公園に含まれる。

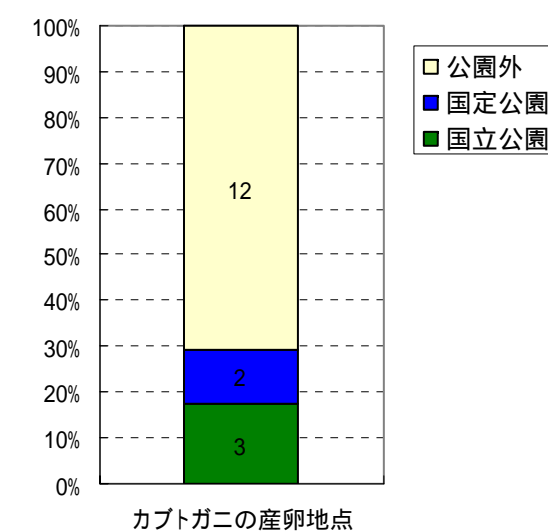


図 3 カブトガニの産卵地点が国立・国定公園内に含まれる地点数

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園(環境省自然環境情報GIS)基礎データを基に修正
カブトガニの産卵地点	・東京大学大学院総合文化研究科清野研究室資料、カブトガニの棲む干潟 八坂川の河川改修と環境保全 大分県 p.60(1999)清野聡子・宇多高明・大分県

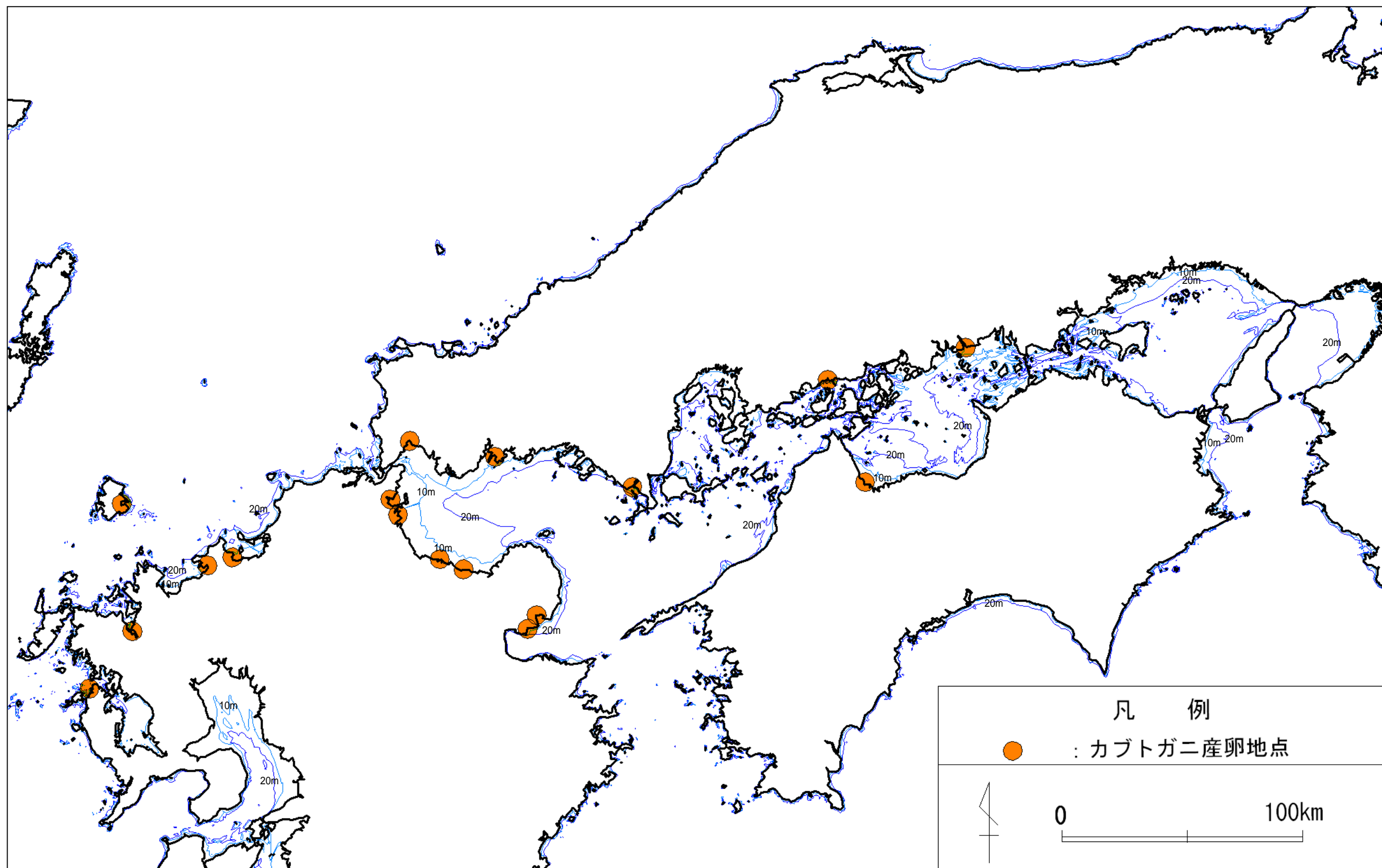


図 4 日本におけるカブトガニの産卵地点

出典：「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000年(10万の1を代表縮尺として編集されている)」、「カブトガニ産卵地点：カブトガニ産卵地点：東京大学大学院総合文化研究科清野研究室資料、カブトガニの棲む干潟 八坂川の河川改修と環境保全 大分県 p.60(1999)清野聡子・宇多高明・大分県」

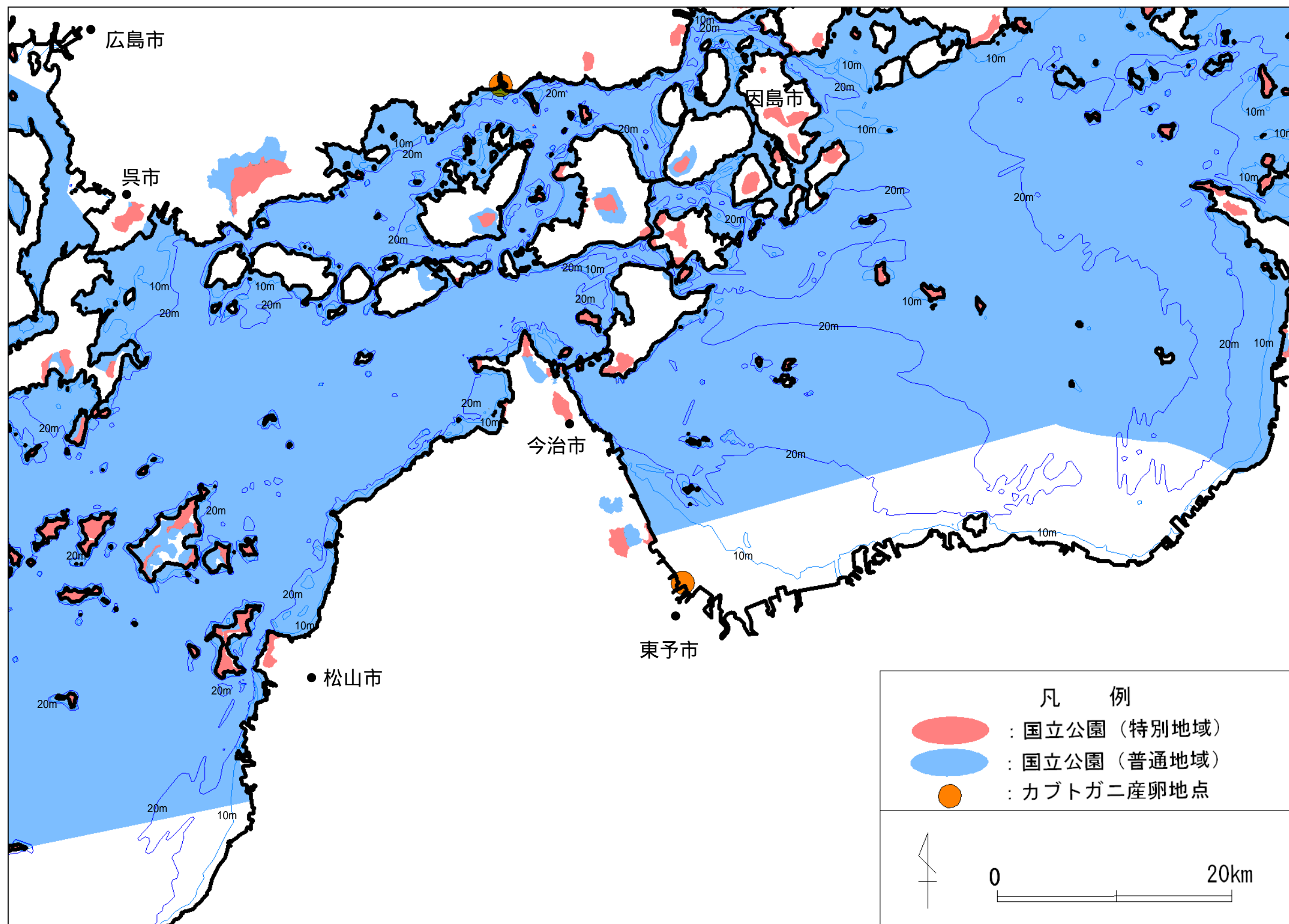


図 5 瀬戸内海国立公園におけるカブトガニの産卵地点

出典：「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000年(10万の1を代表縮尺として編集されている)」、「カブトガニ産卵地点：東京大学大学院総合文化研究科清野研究室資料、カブトガニの棲む干潟 八坂川の河川改修と環境保全 大分県 p.60(1999)清野聡子・宇多高明・大分県」

資料4-3. 海獣類（トド、ゴマファザラシ）の上陸場と国立・国定公園

(海獣類の上陸場(トド、ゴマファザラシ)が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ 広範囲な調査結果のあるトド、ゴマファザラシの調査結果を用い、海獣類の上陸場がどれくらい国立・国定公園に含まれているか確認する。

【分析の概要】

- ・ トド、ゴマファザラシの上陸場で国立・国定公園内と重なっている地点数

	トド上陸場		ゴマファザラシ上陸場	
	地点数	割合	地点数	割合
国立公園	1	12.5%	4	8.0%
国定公園	3	37.5%	9	18.0%
公園外	4	50.0%	37	74.0%
総計	8	100.0%	50	100.0%

注 1) 四捨五入の関係上、合計しても 100%にならない場合がある。

注 2) トド上陸場のデータは複数年のものを使用している。

【分析結果】

- ・ トド上陸場として確認されている 8 地点のうち、50%の 4 地点が国立公園・国定公園に含まれる。
- ・ ゴマファザラシ上陸場として確認されている 50 地点のうち、26.0%の 13 地点が国立公園・国定公園に含まれる。

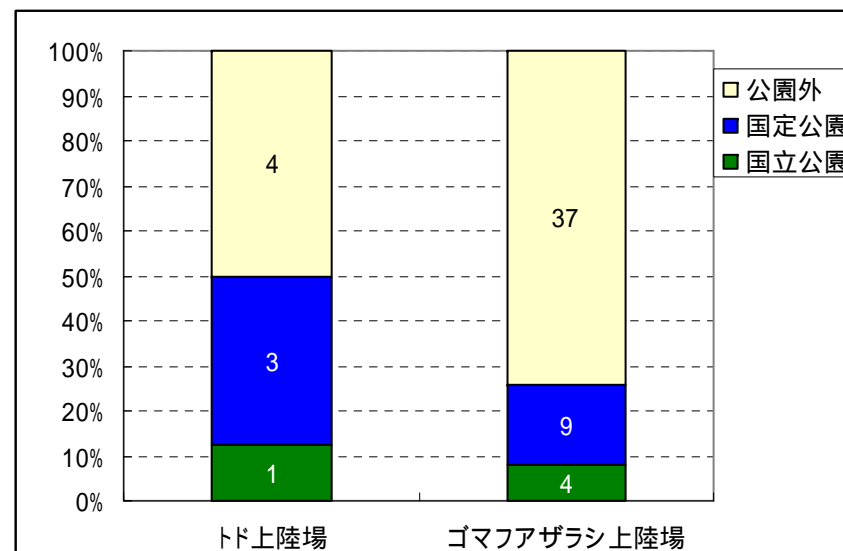


図 6 トド・ゴマファザラシの上陸場が国立・国定公園内に含まれる地点数

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園（環境省自然環境情報GIS）基礎データを基に修正
海獣類	・ゴマファザラシ（アザラシ類保護管理報告書 平成18年3月(環境省)、トド(種の多様性調査(動物分布調査)2002)

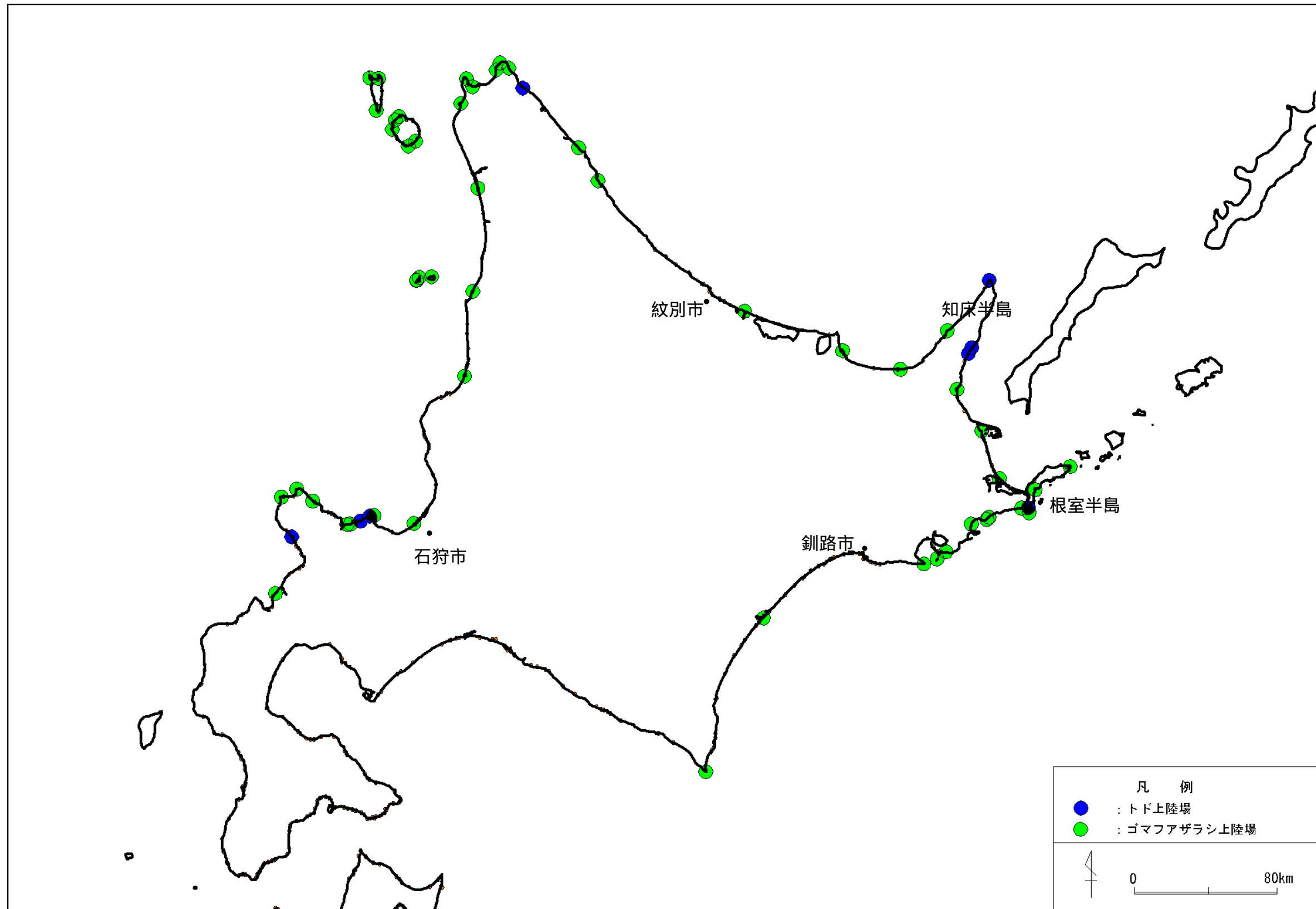


図 7 北海道における海獣類(トド、ゴマフアザラシ)の上陸場

出典:「国立・国定公園:(環境省自然環境情報 GIS を基に修正)」、「海岸線データ:日本全域海岸線データ,海洋情報センター、1996～2000年(10万の1を代表縮尺として編集されている)」、「アザラシ:アザラシ類保護管理報告書 平成18年3月、環境省」、「トド:(種の多様性調査(動物分布調査)2002)」

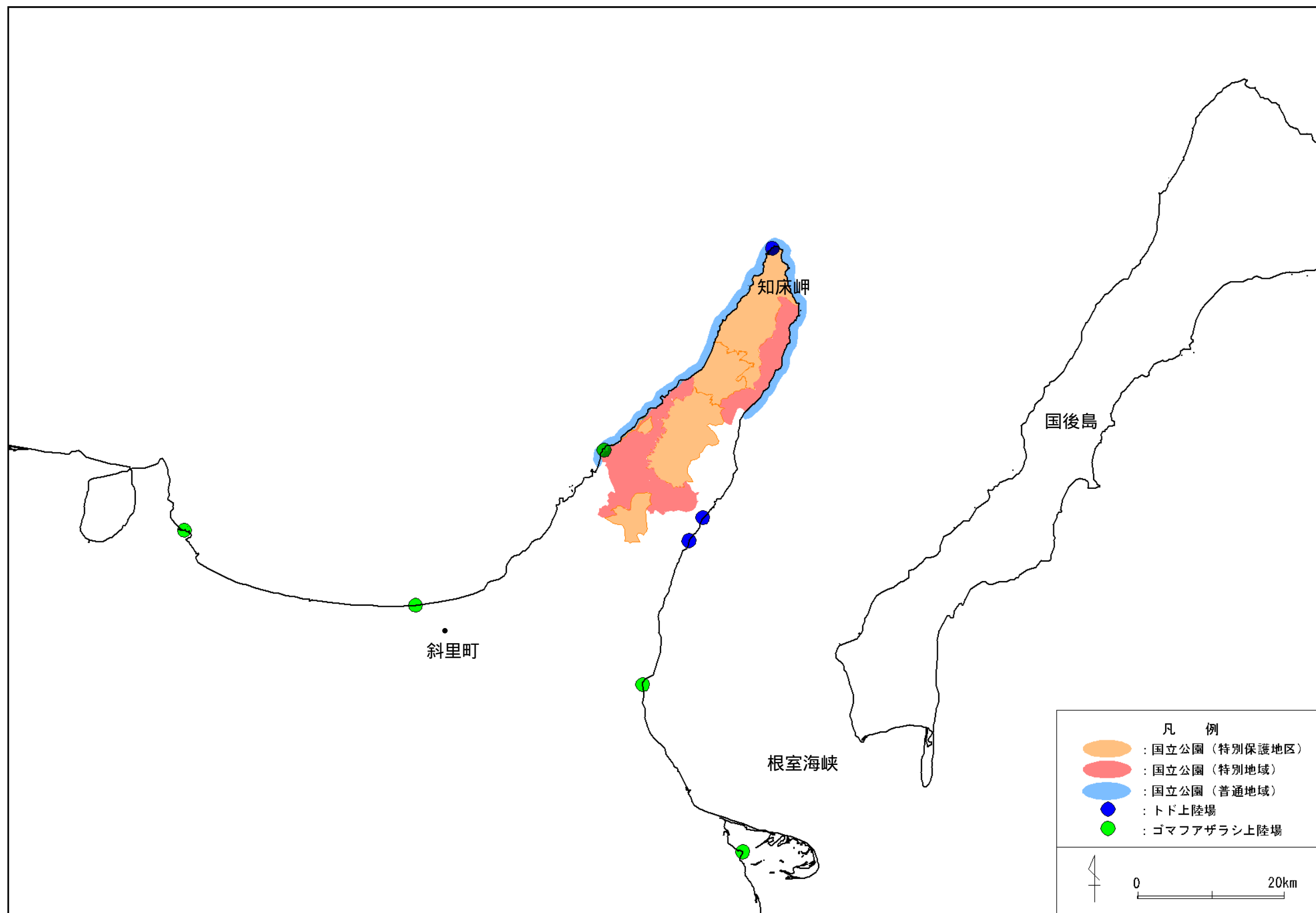


図 8 知床国立公園における海獣類(トド、ゴマフアザラシ)の上陸場

出典:「海岸線データ:日本全域海岸線データ,海洋情報センター、1996～2000年(10万の1を代表縮尺として編集されている)」「アザラシ:アザラシ類保護管理報告書 平成18年3月、環境省」、「トド:(種の多様性調査(動物分布調査)2002)」 注:公園区域は2005年4月時点(海域普通地域拡張前)

資料4-4. 海獣類（ジュゴン）の生息場と国立・国定公園

(海獣類(ジュゴン)の生息場が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ 沖縄本島周辺海域に生息するジュゴンについて、目視、食跡(はみ跡)が確認された地点がどれくらい国立・国定公園に含まれているか確認する。

【分析の概要】

- ・ ジュゴンの生息場で国立・国定公園内と重なっている地点数

	目視地点		食跡確認地点		合計	
	地点数	割合	地点数	割合	地点数	割合
国立公園	0	0%	0	0%	0	0%
国定公園	1	3%	18	60%	19	32%
公園外	28	97%	12	40%	40	68%
総計	29	100%	30	100%	59	100%

【分析結果】

- ・ ジュゴン目視地点 29 地点のうち、1 地点(3%)が国定公園に含まれ、食跡確認地点 30 地点のうち 18 地点(60%)が国定公園に含まれる。なお、目視視点と食跡確認地点を合計した地点数 59 地点のうち、19 地点(32%)が国定公園に含まれる。

注 1) 四捨五入の関係上、合計しても 100%にならない場合がある。

注 2) ジュゴンの目視地点、食跡確認地点には防衛庁が行った調査結果も含んでいる。

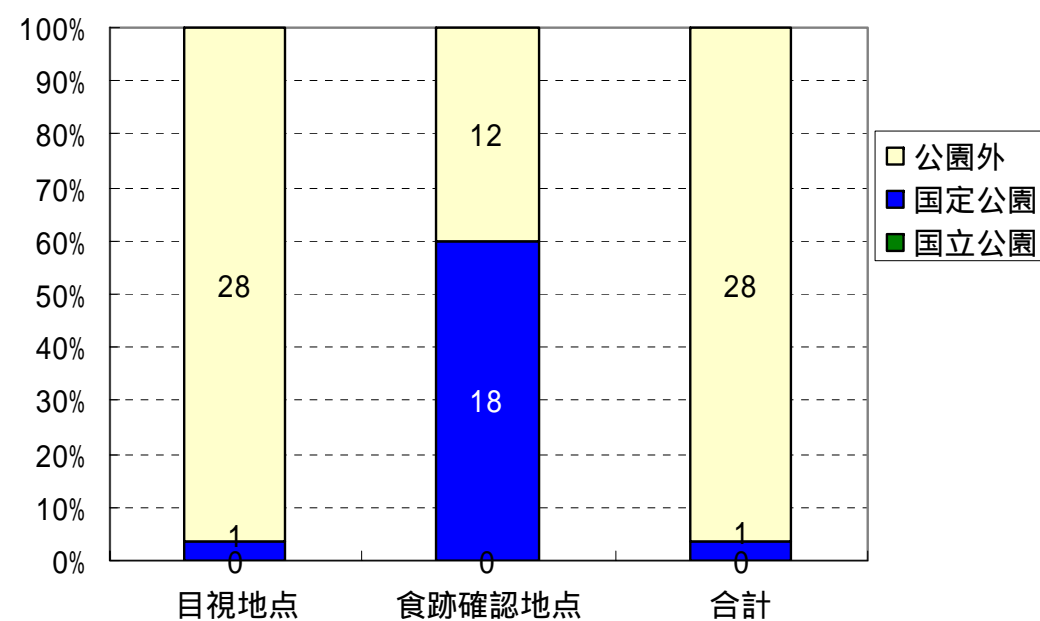


図 9 ジュゴンの生息場が国立・国定公園内に含まれる地点数

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・国立・国定公園（環境省自然環境情報GIS）基礎データを基に修正
海獣類	・ジュゴン(ジュゴンと藻場の広域的調査 平成13～17年度 環境省、(平成12年防衛施設庁調査結果含む))

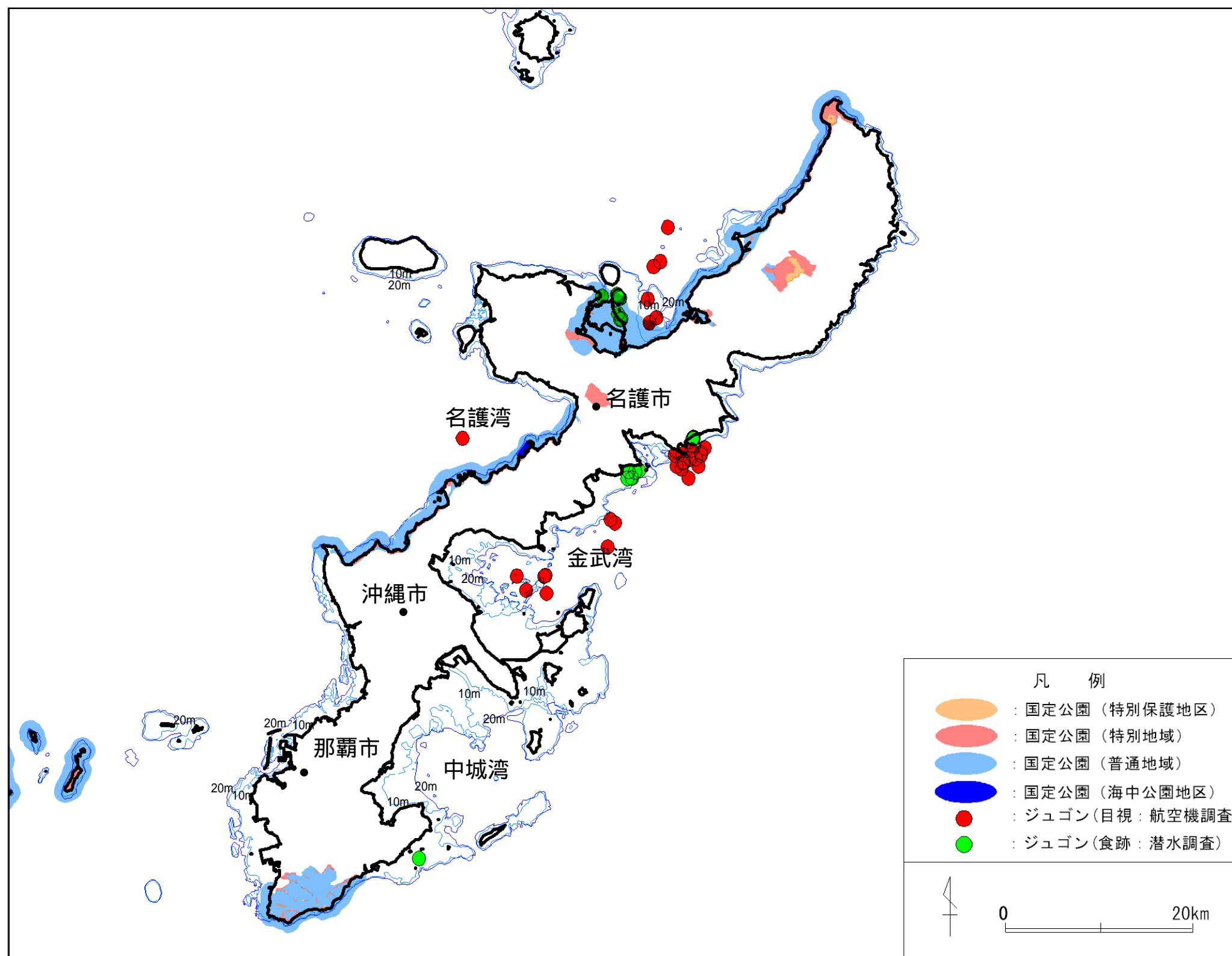


図 10 沖縄海岸国立公園(沖縄本島周辺)におけるジュゴンの生息場

出典：「国立・国立公園：（環境省自然環境情報 GIS を基に修正）」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000 年（10 万の 1 を代表縮尺として編集されている）」、「ジュゴン（ジュゴンと藻場の広域的調査 平成 13～17 年度 環境省）、平成 12 年防衛施設庁調査結果含む」

資料4-5. 鳥類の海辺の生息場と国立・国定公園

(鳥類の海辺の生息場が国立・国定公園に含まれる割合)

【分析目的】

- ・ 海辺の湿地や干潟はガン・カモ科などの水鳥、シギ・チドリ類の重要な生息場である。これらの鳥類の海辺の生息場が国立・国定公園に含まれる割合を確認する。

【分析の概要】

・ガン・カモ科の生息場、シギ・チドリ類の渡りの場、IBA(重要野鳥生息地)が国立・国定公園内に含まれる地点数

	ガンカモ科 生息地点数	シギ・チドリ類 生息地点数	IBA地点数
国立公園	149 地点	3 地点	1 地点
国定公園	150 地点	3 地点	3 地点
(うち鳥獣保護区内)	(0 地点)	(1 地点)	(0 地点)
公園外	1,005 地点	41 地点	32 地点
(うち鳥獣保護区内)	(29 地点)	(3 地点)	(2 地点)
全地点数	1,304 地点	47 地点	36 地点

・ガン・カモ科の生息場、シギ・チドリ類の渡りの場、IBA(重要野鳥生息地)が国立・国定公園内に含まれる割合

	ガンカモ科 生息地点数	シギ・チドリ類 生息地点数	IBA地点数
国立公園	11.4%	6.4%	2.8%
国定公園	11.5%	6.4%	8.3%
(うち鳥獣保護区内)	(0.0%)	(2.1%)	(0.0%)
公園外	77.1%	87.2%	88.9%
(うち鳥獣保護区内)	(2.2%)	(6.4%)	(5.6%)
全地点数	100.0%	100.0%	100.0%

注 1: ガン・カモ科の生息場、シギ・チドリ類の渡りの場については、環境省の生息調査を行っている場所を主要な生息場とした。IBA(重要野鳥生息地)とは重複しているものもある。また、内水面(川、湖等)についてはカウントしていない。

注 2: 四捨五入の関係上、合計しても 100%にならない場合がある。

注 3: 鳥獣保護区は国指定鳥獣保護区

【分析結果】

- ・ ガン・カモ科の生息場のうち、11.4% (149 地点) が国立公園に、11.5% (150 地点) が国定公園に含まれる。なお 2.2% (29 地点) は国立・国定公園に含まれないが、鳥獣保護区に含まれる。
- ・ シギ・チドリ類の生息場のうち、6.4% (3 地点) が国立公園に、6.4% (3 地点) が国定公園に含まれる。なお、6.4% (3 地点) は国立・国定公園に含まれないが、鳥獣保護区に含まれる。
- ・ IBA(重要野鳥生息地)のうち、2.8% (1 地点) が国立公園に、8.3% (3 地点) が国定公園に含まれる。なお、5.6% (2 地点) は国立・国定公園に含まれないが、鳥獣保護区に含まれる。

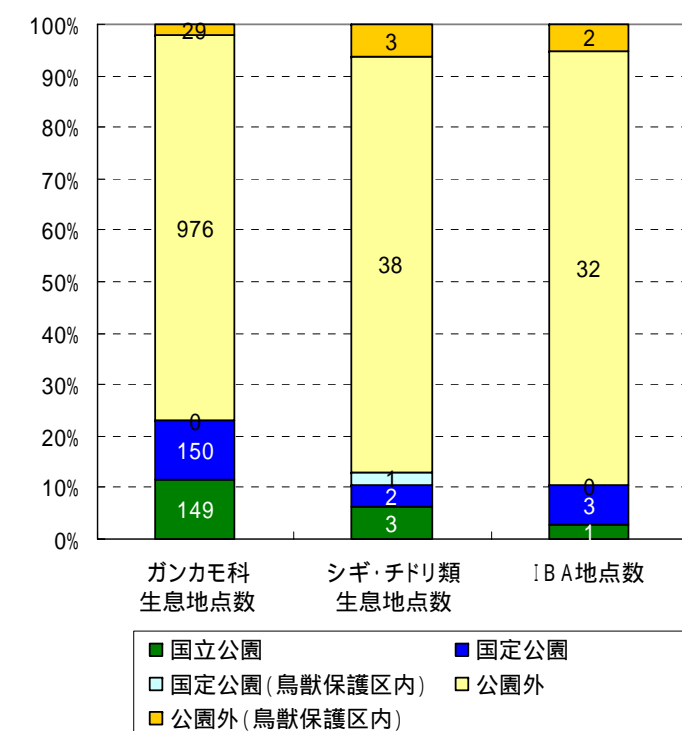


図 11 鳥類の海辺の生息の場が国立・国定公園内に含まれる地点数

【出典】

重ねあわせデータ	出典
国立・国定公園	・ 国立・国定公園 (環境省自然環境情報GIS) 基礎データを基に修正
鳥類の生息場	・ ガンカモ科生息場(生物多様性情報システム、ガンカモ科鳥類の生息調査) ・ シギ・チドリ類渡来湿地(シギチドリ類渡来湿地目録 環境省) ・ IBA(Important Bird Areas) 重要野鳥生息地 (財)日本野鳥の会

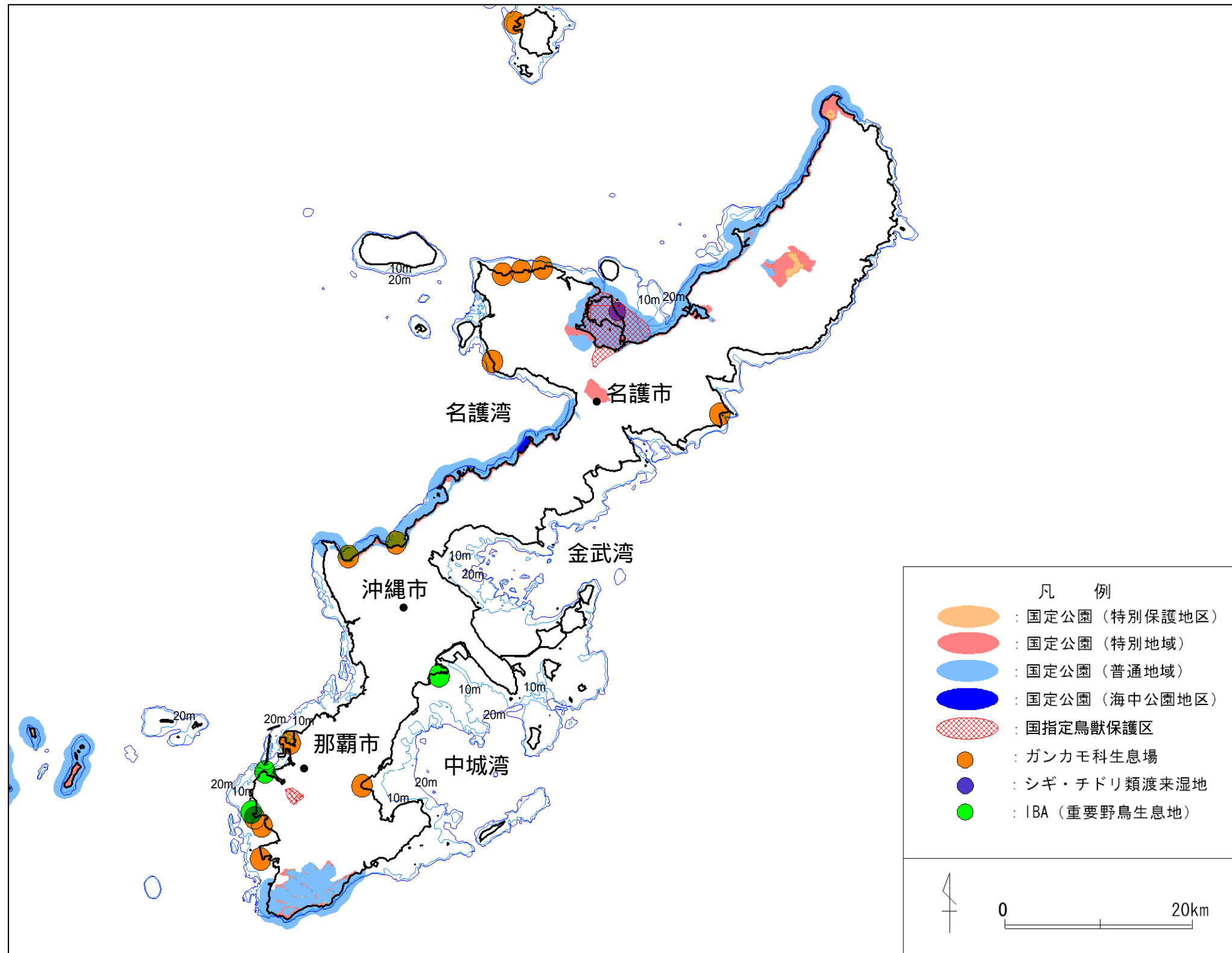


図 12 沖縄海岸国定公園(沖縄本島周辺)における鳥類の生息場

出典：「国立・国定公園：（環境省自然環境情報 GIS を基に修正）」、「海岸線データ：日本全域海岸線データ、海洋情報センター、1996～2000 年（10 万の 1 を代表縮尺として編集されている）」、「ガンカモ科生息場：生物多様性情報システム、ガンカモ科鳥類の生息調査」、「シギ・チドリ類渡来湿地：シギ・チドリ類渡来湿地目録 環境省」、「IBA（Important Bird Areas）：重要野鳥生息地（財）日本野鳥の会」、「鳥獣保護区：鳥獣保護区位置図（自然環境情報 GIS：1999 年）」

注 1：海域にかからない鳥類の生息場については図示していない。

国立公園内に生息すると考えられる海産外来生物リスト

綱	種名	要注意外来生物	海域を含む国立公園地域														
			利尻礼文サロベツ	知床	陸中海岸	富士箱根伊豆	小笠原	伊勢志摩	吉野熊野	山陰海岸	大山隠岐	瀬戸内海	足摺宇和海	西海	雲仙天草	霧島屋久	西表
甲殻	タテジマフジツボ キタアメリカフジツボ ヨーロッパフジツボ アメリカフジツボ イッカククモガニ	2															
多毛	カニヤドリカンザシ カサネカンザシ	2 1															
腹足	カラムシロ シマメノウフネガイ	2															
二枚貝	ムラサキイガイ ミドリイガイ コウロエンカワヒバリガイ	1 1 2															
ホヤ	マンハッタンボヤ クロマメイタボヤ																
褐藻	ヒラムチモ																
渦鞭毛藻	<i>Alexandrium tamarense</i> <i>Heterocapsa circularisquama</i>																

要注意外来生物1:被害に係る一定の知見があり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

要注意外来生物2:被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

国定公園内に生息すると考えられる海産外来生物リスト

綱	種名	要 注 意 外 来 生 物	海 域 を 含 む 国 定 公 園 地 域																									
			暑 寒 別 天 売 焼 尻	網 走	ニ セ コ 積 丹 小 樽 海 岸	日 高 山 脈 襟 裳	下 北 半 島	津 軽	南 三 陸 金 華 山	男 鹿	鳥 海	水 郷 筑 波	南 房 総	佐 渡 弥 彦 米 山	能 登 半 島	越 前 加 賀	若 狭 湾	三 河 湾	北 長 門 海 岸	室 戸 阿 南 海 岸	玄 海	吉 岐 対 馬	日 豊 海 岸	日 南 海 岸	奄 美 群 島	沖 縄 海 岸	沖 縄 戦 跡	
甲殻	タテジマフジツボ キタアメリカフジツボ ヨーロッパフジツボ アメリカフジツボ イッカククモガニ	2																										
多毛	カニヤドリカンザシ カサネカンザシ	2 1																										
腹足	シマメノウフネガイ																											
二枚貝	ムラサキイガイ ミドリイガイ コウロエンカワヒバリガイ ウスカラシオツガイ	1 1 1																										
褐藻	ヒラムチモ																											

要注外来生物1:被害に係る一定の知見があり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

要注外来生物2:被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物